

2006年4月6日

## バイオ医薬品向け組換えタンパク質の製造設備の増設を決定

旭硝子株式会社

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、バイオ医薬品原体の受託製造事業拡大のため、組換えタンパク質の製造設備の増設を決定しました。当社千葉工場（千葉県市原市）において、3000リットル規模の培養設備を含む新工場を建設することとし、本年10月に着工、2008年7月に商業生産を開始する予定です。今回増設する設備は、当社中央研究所（神奈川県横浜市）内における現有設備の10倍の規模に相当し、バイオ医薬品原体受託製造専門メーカーとしては、国内最大級の規模です。新設備は、各種の微生物をベースとした発現系による組換えタンパク質の生産に対応し、医薬品の製造規範であるcGMPに準拠するものです。

当社は、2000年に「ASPEX事業推進部」を設置して以来、中央研究所内のパイロットプラントを活用し、バイオ医薬品原体である各種タンパク質の製造プロセスの開発および治験薬の製造を中心とした事業を展開してきました。国内外の医薬・化学・食品メーカーおよびバイオベンチャー企業を対象にマーケティングを進める中で、旺盛な引き合いをいただき、既に多くのプロジェクトを受注しています。今回の増設は、これら既存のプロジェクトの量産に向けた準備であるとともに、今後拡大の見込まれているバイオ医薬品製造への潜在的な需要にタイムリーにこたえていくことを目的としています。

今回の設備増強を実施することで、当社独自の分裂酵母を利用したタンパク質発現システムである「ASPEX」を活用した発現系開発ステージから、上市品の量産に至るまでの、あらゆるステージで組換えタンパク質製造に関するニーズにお応えする、ワンストップショップ体制を実現できることとなります。

当社は、発現系としてのASPEXの技術を強化するとともに、多様化する委託先メーカーのニーズにフレキシブルに対応できる生産体制を整えることで、タンパク質製造分野でのナンバーワン企業を目指します。

以上

本件に関するお問い合わせ先：旭硝子（株）広報・IR室長 川上 真一

（担当：箕田 TEL:03-3218-5408 E-mail:[info-pr@agc.co.jp](mailto:info-pr@agc.co.jp)）

<ご参考>

- （1）発現系：微生物や細胞に遺伝子を導入して培養し、タンパク質を作らせること。
- （2）cGMP：current Good Manufacturing Practiceの略称。品質の良い優れた医薬品を製造するための要件をまとめた規準。WHOが1969年にGMPの採用を勧告して以来、医薬品製造に関する必須要件として世界各国において定着している。
- （3）ASPEX（アスペックス）：Asahi Glass Schizosaccharomyces pombe Expression System

(4) ASPEX事業の概要

